

「令和 6 年度 全国学力・学習状況調査」の結果と今後の取り組み について

越前町立織田小学校

＜全国学力・学習状況調査について＞

本調査は、文部科学省が、全国の小学 6 年生と中学 3 年生を対象に、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点」から、毎年（R2 年度は新型コロナウイルスの影響のため中止）行っている調査です。学校の教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることなどを目的としています。

今年度は、「国語」「算数」の 2 教科および学習状況の調査が行われました。

本校の結果は、2 教科とも、全国平均より上回っていました。

【教科について】（○…よい、▲…課題あり、※…考察）

（１）国語について

○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして説明していることをとらえることができる。

○人物像を具体的に想像することができる。

○読書が自分の考えを広げることに関係づけたり気付くことができる。

▲話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができる。

▲描写をもとに登場人物の相互関係や心情をとらえることができる。

▲目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

※複数の資料を照らし合わせて、条件に合うように自分の考えを書き表すことを苦手としている。

（２）算数について

○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる。

○直方体の見取図について理解し、かくことができる。

○直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している。

▲表やグラフ、問題文などから示された情報を基に、必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる。

▲角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる。

※必要な情報を読み取って判断したり、言葉や数を用いて理由を記述したりすることを苦手としている。

【学習や生活に関するアンケート調査から】（○…良いもの、▲…課題あり）

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気が付いたりすることができていますか」

- ▲「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」
- ▲「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

【課題をふまえての取組】

（１）対話を通して高め合う授業づくり

- 児童一人一人が直面した課題に対し真剣に考え、その解決に向けてＩＣＴ機器なども使って自分なりに表現したり、意見を交換したりする活動を通して、互いに高め合っていく。達成に向けた２つの視点と具体的な手立てを以下に挙げる。

①自分の考えをもち表現するために

【具体的な手立て】

- ◆ねらいに迫る適切な課題設定を行う
- ◆知的好奇心をゆさぶる課題提示の仕方を工夫する
 - ・生活や体験と関連付けた課題設定
 - ・「考えたい」「取り組みたい」という意欲が高まる提示の工夫
 - ・「えっ？」「本当に？」と疑問をもたせるような課題の工夫
- ◆自分でしっかりと考える時間を確保する
- ◆考える視点を明確に示す
- ◆考えをもてない児童・生徒への手立てを準備する
- ◆自分の考えを表現する活動を取り入れる（キーワード・言葉・図・絵・式・表・グラフなど教科の特質を生かして）

②互いに高め合うために

【具体的な手立て】

- ◆活動の目的に応じて有効な学習形態（ペア・グループ・一斉）を活用する
- ◆発表の羅列にならないように発言をつなぎ深めるためのコーディネートをする（比較・焦点化・根拠の明確化・類推）
- ◆思考を深める問い返しや思考をゆさぶるしかけを工夫する（誤答提示・一般化・多面化…）

（２）自己存在感を実感できる授業作り（学びをつなげる）

- 単元のめあてを児童と共有し、主体的な学びの中から、自己の成長を実感できるような評価の工夫を行う。
- ＩＣＴ機器による画像や動画を活用して、自分の考えまとめたり、広げたり、深めたりする。さらに思考を共有させることで、他者に認められる場面を増やし、自己存在感を実感できるようにする。
- 一人一人が認められていると感じられる環境づくりのために、安心して自分の意見を伝えられるような雰囲気づくりを工夫する。

（３）家庭との連携

- 学校と家庭の情報交換を密にし、いつでも話し合いや相談ができるような体制を作り、協力して子どもを育ていける関係づくりに努める。